

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3136 号	氏 名	笠 ゆりな
論文審査担当者	主査 門松 香一 教授 副査 矢持 淑子 教授 副査 北見 由季 准教授		
<p>論文題名：昭和大学藤が丘病院における 10 年間の皮膚腫瘍の疫学的検討 —術前臨床診断と病理組織診断の一致率を含めて—</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌第 81 巻第 3 号 2021 年 7 月掲載予定</p> <p>皮膚腫瘍の内訳および臨床・病理診断の整合性を明らかにする目的で 10 年間 2504 病変について検討した。良性腫瘍 1837 例，悪性腫瘍 590 例，非腫瘍性変化 77 例であり，疾患別で良性腫瘍は表皮嚢腫 455 例，母斑細胞母斑 379 例，脂漏性角化症 225 例，悪性腫瘍は基底細胞癌 163 例，光線角化症 132 例，Bowen 病 91 例，有棘細胞癌 45 例，悪性黒色腫 27 例の順であった。悪性腫瘍の年齢別は 50 代までは 50 例未満であったが，80 歳以上では 201 例であった。臨床的に良性腫瘍と診断した 1889 例における診断一致率は 93.3%であった。臨床的に良性腫瘍と誤診断した悪性腫瘍 62 例は有棘細胞癌 10 例，悪性黒色腫 10 例，基底細胞癌 9 例の順に多く，非典型的な dermoscopy 所見を認める例や非好発部位例，未完成な初期病変や出血による修飾を認める例であった。1 基幹病院での長期間の観察を行い十分なサンプルサイズが得られた事で皮膚腫瘍の発生頻度や術前臨床診断と病理診断の一致率に関する新知見を与えるものと考えられる。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)